

Q. 16 小集団（グループ）学習などの学習形態を工夫してみたいと思います。どのようなことに気を付けて実践したらよいのでしょうか。

A. 主な学習形態には、『一斉学習』『小集団学習』『個別学習』などがあります。授業のどの場面で『小集団による学習』形態を取り入れたら、その時間の指導のねらいを達成するために効果的なのかを考えて実践することが大切です。

### ○小集団の学習形態の長所

大きく2つのメリットが挙げられるでしょう。1つは、学習への意欲を高め、学習の成果を上げていくという点であり、もう1つは、人間関係やコミュニケーション能力の育成が図られるという点です。



一斉学習では発表する子の人数は限られ、その他の子どもは聞き役になりがちです。また、全体の場で意見を言うのが苦手な子も、小集団の中では、自分の意見を気軽に申し合ったり、質問し合ったりすることも可能になってきます。

このような相互作用による集団思考が授業を活性化させ、児童生徒個々の学習を深めていくこととなります。また、言語活動の充実という視点でも注目されている方法でもあり、小集団学習を適切に取り入れることで、子どもたちの学力が向上したという報告もあります。

### ○目的をもって取り入れること

何のために小集団学習を取り入れるのかを明らかにしましょう。グループ内で仲良く助け合い、意見交換が充実した授業の後には、満足感を感じるものです。しかし、本時のねらいを達成できなければ、その小集団学習は有効であるとは言えません。子どもたちが学び合う姿勢を養うことは大切なことですが、教科のねらいを達成するための手段としてふさわしいかどうかを考えることの方が重要なのです。

小集団学習は授業のねらいを達成するための1つの手段であって、それ自体が目的にならないように気を付けたいものです。

### ○適切な指導を行うこと

小集団学習を行う前に活動内容やねらいを明確に指示したり、途中で各集団を観察して適宜アドバイスしたりするなど、教師は適切な指導を行う必要があります。小集団での学習に慣れていない子や話合いに参加できなくて孤立しがちな子もいますので、教師はその子に声がけしたり、集団の他の子に働きかけたりするなどの支援を行うようにします。

### ○他の学習形態と組み合わせること

小集団学習を一斉学習や個別学習などを上手に組み合わせることで、学習効果を上げていくことが大切です。

一斉学習は、基礎的・基本的な事項の説明や指示などによって、教師から直接的に働きかけ、知識や技能を伝える際に効率的です。また、小集団学習で出された意見を学級全体で整理・確認、比較検討していく場合にもこの形態が基本になります。

一斉学習や小集団学習の前に、個別学習の時間を取り、自分自身で考えさせたり、小集団学習の途中や一斉学習の後に振り返らせたりすることも重要です。集団での学習場面だけでなく、個別学習の場面を設定するようにしましょう。